



平成 31 年 2 月 14 日
独立行政法人国立科学博物館

科博NEWS展示 「愛知県小牧市に落下した新隕石『小牧隕石』」のご案内

独立行政法人国立科学博物館(館長:林 良博)は、来る 2019 年 2 月 19 日(火)から 3 月 17 日(日)まで、科博 NEWS 展示「愛知県小牧市に落下した新隕石『小牧隕石』」を開催いたします。

昨年 9 月 26 日に愛知県小牧市に落下した隕石を分析し分類を確定して、国際隕石学会へ名称を「小牧隕石(Komaki)」として登録申請しました。この新落下隕石の実物標本と隕石が衝突した屋根の一部などの関連資料を展示し、パネル解説で紹介いたします。また隕石薄片を偏光顕微鏡により観察いただけます。

【主催】 国立科学博物館

【協力】 国立極地研究所、名古屋市科学館

【開催期間】 平成31年2月19日(火)～3月17日(日)

【開催場所】 国立科学博物館(東京都台東区上野公園7-20)

日本館3階「変動する日本列島」日本に落下した隕石のコーナー

本件の詳細については、以下にお問合せください。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

担当研究員：米田 成一(理工学研究部 理化学グループ グループ長)

研究活動広報担当：稲葉 祐一

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-853-8984 FAX:029-853-8998

E-mail: t-shuzai@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP <http://www.kahaku.go.jp/>

展示概要

日本に落下した隕石は昨年2月に登録された長良隕石を含めてこれまで51件が知られており、この内の約半数にあたる24件の隕石を日本館3階「変動する日本列島」日本に落下した隕石のコーナーに展示しています。小牧隕石は昨年9月26日に愛知県小牧市の民家に落下した新しい隕石で、当館に同定依頼があり、ガンマ線測定を行って宇宙線生成核種を検出し、最近落下した隕石であることを確認しました。これは2003年に広島市に落下した広島隕石以来15年ぶりの落下となります。そして、国立極地研究所や九州大学の協力を得て詳細な分析を行い、分類を確定して国際隕石学会へ名称を「小牧隕石 (Komaki)」として登録申請を行いました。そこで、本NEWS展示では、発見者から隕石実物標本を借用して（一部を寄贈いただきました）展示するとともに、隕石が衝突した屋根の一部なども併せて展示して、隕石落下の様子を紹介いたします。また、隕石薄片を偏光顕微鏡で観察していただくとともに、この隕石薄片の分析の結果や分類などを解説パネルで説明いたします。

展示物

小牧隕石実物標本

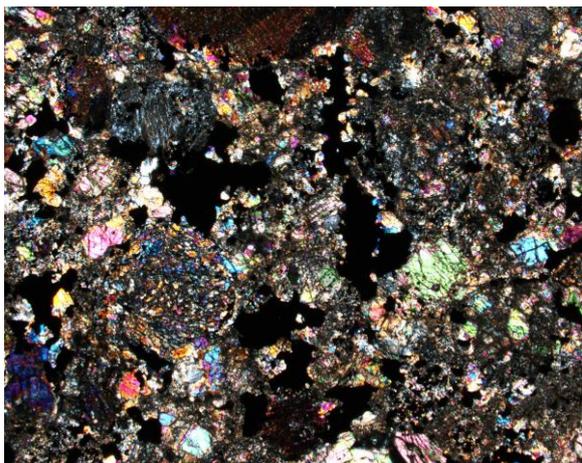
約 550g の最大片（20g を分析・保管用に切断）と約 81g の小片を展示します。この他に約 23g の小片や 1g 程度の破片が多数あり、元の重量は 650g を超えていたと考えられます。



小牧隕石の最大片約 550g（左）と約 81g の小片

小牧隕石の薄片

隕石薄片は隕石を切ってスライドガラスに貼り、さらに研磨して光が通り抜けるほど薄くしたもので、光学顕微鏡で隕石組織を観察できるようになります。偏光顕微鏡は光学顕微鏡の一種で、薄片試料の上下で偏光板を通すことにより鉱物の干渉色が見られ、組織が観察しやすくなるように工夫をされたものです。小牧隕石の薄片を偏光顕微鏡で観察することができます。



小牧隕石薄片の偏光顕微鏡写真（幅 4.67mm、cross-polarized light）（国立極地研究所）

小牧隕石が衝突した屋根の一部（名古屋市科学館所蔵）

昨年9月26日22時30分頃、愛知県小牧市の民家で大きな音がして、翌朝調べてみると屋根に大きなえぐれた跡があり、庭とテラスに黒い破片が発見されました。また、隣家のカーポートの屋根に穴が開き、止めてあった車の屋根にもへこみができていて、玄関前に黒い隕石が発見されました。この屋根の一部を修理の際に切り取ったものと、カーポートの屋根の破片を展示します。



修理で切り取られた屋根の一部（写真：名古屋市科学館）